

# 濱口プラン ～変革への挑戦～

JSTは、世界トップレベルの研究開発を行うネットワーク型研究所として、未来共創イノベーションを先導します。



国立研究開発法人  
科学技術振興機構  
理事長 濱口道成

国内外の大学・研究機関・産業界等との緊密なパートナーシップを深め、国民の生活や社会の持続的な発展に貢献するため、新たな飛躍に向けた改革を断行します。

## I. 独創的な研究開発に挑戦するネットワーク型研究所の確立

変容する社会に対応し、イノベーションにつながる新たな潮流を生み出す独創的なネットワーク型研究所として、ハイリスクな課題に失敗を恐れず取り組みます

1. 戦略的マネジメントシステムを持つネットワーク型研究所の確立
2. イノベーション・エコシステムの構築と産業界・社会への橋渡し機能の強化
3. オープンサイエンスへの対応
4. 国際化のさらなる強化

## II. 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言

社会との対話・協働や客観データの分析を通じ、科学への期待や解決すべき社会的課題を「見える化」して、先見性に満ちた研究開発戦略を立案・提言します

1. 科学技術イノベーションに関するインテリジェンス機能の強化
2. 未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化

## III. 未来を創る人材の育成

科学技術イノベーションの創出に果敢に挑む多様な人材を育成します

1. ハイリスク・挑戦的な研究開発を主体的にプロデュースする人材の育成
2. 研究開発プログラムを通じた若手研究人材の育成
3. イノベーション創出の活性化に必要なダイバーシティの推進
4. 未来を創る次世代イノベーション人材の重点的育成

## IV. 地域創生への貢献

地域の特色に根ざしたイノベーション・エコシステムを構築し、自律的で持続的な地域社会の発展に貢献します

1. イノベーション創出を通じた地域社会の持続的な発展への貢献

## V. JSTの多様性・総合力を活かした事業運営

JSTの持つ多様性と総合力を活かし、一丸となって効果的・効率的に事業を展開します

1. JSTの総合力の発揮
2. 良質な科学技術と研究の公正性の確保
3. リスク対応の強化と業務の効率化
4. 顔の見えるJSTへ

# I. 独創的な研究開発に挑戦するネットワーク型研究所の確立

変容する社会に対応し、イノベーションにつながる新たな潮流を生み出す独創的なネットワーク型研究所として、ハイリスクな課題に失敗を恐れず取り組みます



## 1. 戦略的マネジメントシステムを持つネットワーク型研究所の確立

- ① 研究開発戦略策定から新たな潮流を生み出す革新的研究、産業界・社会への橋渡しまで切れ目なく繋ぐプログラム運用を実現
- ② クロスアポイントメント制度等を活用し、各々の研究開発プログラムにJSTが雇用するプログラムマネージャー（PM）を配置して、JSTが主体的に研究開発を推進
- ③ ハイリスク・挑戦的な研究開発プログラムの拡充・強化
- ④ 全ての研究開発プログラムを横断的に統括する司令塔組織の新設

## 2. イノベーション・エコシステムの構築と産業界・社会への橋渡し機能の強化

- ① 研究開発の様々なフェーズにおいて、戦略的知財マネジメント、本格的な産学共同、ベンチャー立上げ等を強化
- ② 拠点型プログラムの推進により、大学・研究開発法人改革を先導

## 3. オープンサイエンスへの対応

- ① オープンサイエンスの潮流を踏まえ、データ駆動型の研究開発を推進
- ② 様々な科学技術情報収集と活用のハブ機能を充実

## 4. 国際化のさらなる強化

- ① 国境を越えて人・組織の協働を促す国際化を進め、研究開発力・研究開発基盤を強化
- ② 地球規模課題の解決や我が国の科学技術外交の推進に貢献

## Ⅱ. 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言

社会との対話・協働や客観データの分析を通じ、科学への期待や解決すべき社会的課題を「見える化」して、先見性に満ちた研究開発戦略を立案・提言します



### 1. 科学技術イノベーションに関するインテリジェンス機能の強化

- ① 総合的な研究開発戦略立案のためシンクタンク機能を一体的に運用
- ② グローバルな研究開発ネットワークへの戦略的な参画
- ③ 国内外の政策や研究者・研究開発の最新動向を把握・分析し、先見性ある研究開発戦略を立案・提言
- ④ 研究開発成果計測のための指標の策定と導入

### 2. 未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化

- ① 自然科学と人文社会科学との融合を促進し、未来社会を創造・先導する研究開発戦略を立案・提言
- ② 国内外のステークホルダーとともにサイエンスアゴラをはじめとする継続的な対話・協働の場を形成

# Ⅲ. 未来を創る人材の育成

科学技術イノベーションの創出に果敢に挑む多様な人材を育成します

## 1. ハイリスク・挑戦的な研究開発を主体的にプロデュースする人材の育成

- ① 挑戦的な研究開発プログラムを主体的にプロデュースする人材 (PM:プログラムマネージャー等)を育成
- ② 大学・研究開発機関・企業等と積極的に連携し、マッチングや支援等を行う様々なイノベーション人材を育成
- ③ 起業家を育成・支援するプログラムをさらに強化

## 2. 研究開発プログラムを通じた若手研究人材の育成

- ① 研究開発プログラムの拡充・強化を通じ、未来を切り拓く若手リーダーを育成
- ② ビッグデータやAI等、急速に進展しつつある領域において若手研究人材の発掘・登用を促進

## 3. イノベーション創出の活性化に必要なダイバーシティの推進

- ① 国際的な頭脳循環の促進 (外国人研究者の積極的登用等)
- ② 女性研究者の育成等を通じた多様性の確保

## 4. 未来を創る次世代イノベーション人材の重点的育成

- ① 中学・高校と大学・研究開発機関等の連携強化による、課題の探求・解決力の向上 (出る杭を伸ばす)
- ② 次世代人材育成事業と国際交流事業の連携によるグローバル人材の養成

## IV. 地域創生への貢献

地域の特色に根ざしたイノベーション・エコシステムを構築し、自律的で持続的な地域社会の発展に貢献します



### イノベーション創出を通じた地域社会の持続的な発展への貢献

- ① 地域の大学や研究機関を起点にした革新的な技術の創出や人材育成、産業の振興を推進
- ② JSTの有する全国的なネットワークを活かし、地域の大学・研究機関のシーズと企業のニーズをマッチングさせる仕組みを強化
- ③ イノベーション創出を通じ、震災からの復興・創生へ引き続き貢献
- ④ 人口減少や超高齢化等の社会的課題に対して、大学や地方行政等と連携し解決策を探求・実装

# V. JSTの多様性・総合力を活かした事業運営

JSTの持つ多様性と総合力を活かし、一丸となって効果的・効率的に事業を展開します



## 1. JSTの総合力の発揮

- ① JSTの活動を最適化するための組織改革を推進
- ② 外部機関との人事交流の促進、海外機関への派遣等による世界で活躍する職員の育成

## 3. リスク対応の強化と業務の効率化

- ① リスク対応とコンプライアンスの推進
- ② イノベーション先導に資する事業への選択と集中
- ③ 経営資源配分の最適化をさらに推進

## 2. 良質な科学技術と研究の公正性の確保

- ① 科学技術に対する社会からの信頼回復
- ② 研究倫理教育の着実な推進

## 4. 顔の見えるJSTへ

- ① JSTの顔が見える広報活動の戦略的展開
- ② 職員による外部に向けた活動、情報発信の促進